

2年生 人権教育学習

○コロナウイルス感染症に関する人々への差別がある現実を聞いてどう思いますか？

- ・この授業を行い差別や偏見がおこらないように、コロナウイルスなどの感染症にかかってしまった人をあたたかくむかえてあげたり不安をだいたりしないように自分ができることをする。
- ・コロナウイルスに感染している人が差別や偏見をされているなら、無視をせず注意してとめてあげたい。もう大丈夫なのにいじめたり、誹謗中傷となる言葉を口に出したりしないでほしいです。いつも通りでいてほしい。
- ・コロナだからといって人を差別するような怖い言葉を聞きたくないと思いました。自分がもし感染して言われたら、耐えられないと思いました。「コロナ」この一言で何人を傷つけたのかな？って考えるようになりました。すぐ人に流されない心の強い人になりたいです。助けられるような人になりたいです。いい幸せな(コロナがあっても差別がない)世界になってほしいと改めて思いました。
- ・コロナウイルスはインフルエンザと似ていると思いました。コロナウイルスも一緒にかかってしまうのは仕方ないと思います。感染対策をしてもかかる人はかかります。感染した人が悪いわけではないし、それを責めるのは間違っていると思います。感染した人が復帰したときに、人の目をきこせず過ごせるようにするのが1番だと思いました。うわさや差別、知りもしない偏見はよくない、自分はしないでおこうと思いました。
- ・この授業で感じたことは、面と向かっては言えないことが、SNSだと言えることがあるのがとてもこわいなと思いました。SNSをつかって悪口などを書き込んだりするの、本当に一人一人やめてほしいなと思います。
- ・誰かが傷つくようなことが実際におきていることを知って、かかりたくてかかったわけでもないのに「お前のせいだ」とかウイルス扱いをするのはよくないし、自分が言われたらどう思うか考えたりしないのかなと思いました。あと、ネットにかいていたことですが、意味もなく証拠もないのに責めたりするのは、その人の生死を左右したりするなど、と書いていました。本当にその通りだと思います。だから自分は感染した人がいたら、その人の気持ちに寄り添って学校に復帰したら、「お帰り」と言ってあげられるようになろうと思いました。今、日本でこんな事が起きていることを知れて、これからの人との接し方を変える良い機会になりました。
- ・コロナウイルスは誰がいつかかるのかも分からないし、自分がかかっている、まわりの人がかかっているかもしれないなどという不安だけで偏見を持って差別するのはよくないと自分は思った。不安を持つのは悪いことではないけれど、偏見を持って差別するまえに、コロナが治って学校に来た人は差別されたらどのような気持ちになるのか、自分も差別されたらどんな気持ちになるのか考えて立ち止まることが必要だと思った。差別しないことが必要だと思った。
- ・不安、偏見、差別、安心感という風に、この4つはつながっていることがわかりました。不安があるのはみんな一緒だし、私もあるけれど、それでもそこから偏見、差別をしてしまうのは絶対によくないと思いました。なぜかという、感染症にかかりたくてかかった人はいないと思うし、もちろんルールを守らず感染した人もいますが、だからと言って受け入れず、差別するのは絶対に違うからです。差別をなくすためには、偏見をなくせばいいし、偏見をなくすにはかかってしまった相手の気持ち、思いを考えたり、理解することが大切だと思いました。みんなが安心して差別せず、偏見をもたず、不安にならないためには、一人一人が手洗い、消毒をしっかりとって頑張っていくことが大切と考えました。私も感染症対策をしっかりとって、差別、偏見につながらないようにしたいと思います。
- ・コロナに感染していない人はコロナに感染した人のことをせめてたり、軽蔑したりする人がいる時点で世界には優しさが少ない。まず、コロナは感染症対策をしてもかかってしまう人はいらるし、感染した人が悪いわけではないし、ネットやSNSでいじめられている人を助けることができない現実がいやだ。